

第8回特定外来生物等分類群専門家グループ会合（哺乳類・鳥類）議事概要

1. 日時 平成29年2月3日（金）14時～16時10分
2. 場所 一般財団法人自然環境研究センター7階 第2会議室
3. 出席者（敬称略）（委員）村上 興正（座長）、池田 透、石井 信夫、石田 健、川上 和人、成島 悦雄、西海 功、羽山 伸一
（環境省）自然環境局野生生物課外来生物対策室長 曾宮、
外来生物対策室長補佐 立田、外来生物対策係長 若松
（農林水産省）大臣官房政策課環境政策室課長補佐 高濱、
農村振興局農村環境課鳥獣対策室課長補佐 久保

4. 議事概要

【今回の検討の考え方について】

（事務局から資料1にもとづき説明）

- （西海委員）クマネズミとドブネズミが特定外来生物に指定されていない理由は何か。
（環境省 若松）全国にまん延しており、導入時期も明治以前だと言われている。衛生害獣として駆除されており、特定外来生物としては合わないところがある。ドブネズミについてはラットの利用もある。
- （村上座長）鳥しょの防除重点地域のような話は常に出てくる。外来生物法が地域限定で指定できるようになるとよい。
（環境省 立田）重要な地域は国立公園や自然環境保全地域の導入規制で対応するという整理になっている。

【特定外来生物等（鳥類）の選定について】

（事務局から資料2、資料3を説明）

<シリアカヒヨドリ>

- （川上委員）神奈川県での観察例は単発的なもので、定着はしていないと思われる。
- （石田委員）過去の輸入など事実はあるのか。
（環境省 若松）種ごとの輸入量は把握されておらず、観察記録以外の情報はない。

<ヒゲガビチョウ>

- （村上座長）未判定外来生物にもかかわらず、既に定着しており、特定外来生物に指定しなければいけない種だろう。
（石田委員）証拠もはっきりしているので、指定には全く問題ない。

- (村上座長) 本会合として、シリアカヒヨドリ及びヒゲガビチョウを特定外来生物に指定するべきであるという結論でよろしいか。
(一同了承)

【今後の対策等について (哺乳類)】

(事務局から資料4を説明)

<生物多様性保全上重要な地域での防除が重要な種>

- (川上委員) 将来的に野生化した集団のみを規制して対策できる法律が必要だと思う。
(環境省 立田) 条例が一つの手段だ。地域のリストや条例が重要であるという議論はされている。現実的な水際対策をどうするかという問題が大きい。
- (石田委員) クマネズミについては、地域指定による対策や移動制限など、対策をする仕組みを作るべきではないか。
(池田委員) 強い規制をかけても、一般に受け入れられるか、実行できるかが難しい。効果を考えると打開策が見当たらないのが現状だろう。

<適正な管理が重要な種>

- (石田委員) ノネコの問題は、国が率先して、積極的に対応するという方針を示していかないと解決しない部分がある。
(村上座長) 飼養動物なので、適正な飼養が必要な種である。
(成島委員) 飼いネコをマイクロチップ等で識別して、飼いネコ以外の扱いについては地域ごとに知恵しぼっていく必要がある。
(村上座長) 比較的成功した例などの情報を収集、整理し、戦略を考える必要がある。地域に応じた選択肢をメニューとして出せるとよい。
- (羽山委員) ノイヌについては殺処分ゼロを目指す中で、放置される例が増えてきている。
(石田委員) ノイヌの捕獲技術が低下していることも課題だろう。
- (村上座長) フェレット協会では全て避妊済みの個体を売買していると聞いているが、避妊・去勢されていない個体の輸入はどのくらいあるか。その実態はわかっているか。
(環境省 若松) 具体的な数は把握できていない。一般的なフェレットは避妊・去勢済みと考えられる。愛好家の中では避妊・去勢されていないものが一部で飼育、流通しているかもしれない。

- (石田委員) カイウサギは具体的にどういった被害があるのか。
(環境省 若松) 石川県の七ツ島大島でオオミズナギドリへの繁殖攪乱があり、環境省で防除も実施している。
- (池田委員) ハクビシンについて、アライグマ防除をしているわなにハクビシンが入ると、特定外来生物ではないハクビシンは放さなければならない。ハクビシンも指定した方が良いが、それを指定の理由にするのは本来的でない。
(川上委員) ハクビシンを特定外来生物に指定することのデメリットは何かあるか。
(環境省 立田) メリットが少ないといえる。環境省が生態系影響の観点からまん延しているハクビシンの防除に労力を費やし、移動や飼育に規制をかける意味はあまり見いだせない。
(羽山委員) 特定外来生物の従事者証と共に鳥獣保護管理法の捕獲許可を出している県はある。
(石田委員) 重要な問題がたくさんある中では、明確なメリットがないものにコストを費やすのはよくない。費用対効果を考えなければいけない。

<全体>

- (石井委員) リストに掲載されている種が今指定されていない理由が示されているとよい。例えばアライグマの指定時に、ハクビシンは指定しなかった時の議論があったと思う。

【防除について】

- (環境省 若松) 今年度、防除の好事例をまとめて、自治体やNPO等に向けて情報提供することを考えている。また、毎年、外来生物法に基づく防除の確認・認定を受けている各主体に対し、防除の実施状況についてのアンケートを送っているため、その結果を分析し、活用できないか考えている。
(村上座長) 防除に関する会議が最近開かれていないが、行動計画の次のステップについて議論をしたほうがよい。

【今後のスケジュールについて】

(事務局から資料1にもとづき説明)

以上